## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

The state of the s	
Title	雄性ラットにおけるAndrosterone代謝の個体差
Sub Title	
Author	青柳, 忍(Aoyagi, Shinobu)
	松井, 道夫( Matsui, Michio)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1978
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of
	Pharmacy). No.23 (1978.) ,p.129- 129
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000023-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

および雄性 ラットを用いて [ $^{14}$ C]-Tおよび[ $^{8}$ H]-Anを ラット肝ミクロゾームとUDP-Glucuronic acidの存在下インキュベーションし、UDP-Glucuronyltransferase活性を測定した。また、Tr-itonX-100 処理による影響も検討した。

〔実験〕雌性および雄性ラットの肝 UDP-Glucuronyltransferase 活性は [14C]-T を基質とした場合いづれのラットも著しい差はみられなかったが、[8H]-Anを基質とした場合には An Glucuronide 生成に顕著な個体差がみられた。以上より An UDP-Glucuronyltransferase 活性の変動が in vivo における An および丁の代謝の個体差の主要因と思われる。

## 雄性ラットにおける Androsterone 代謝の個体差

青柳 忍,松井 道夫

〔日本薬学会 第98年会(1978年4月)で発表〕

〔目的〕演者らは雌性ラットにおける Androsterone (An) の胆汁中代謝物を研究し、その排泄率、抱合型および主な代謝物に個体差のあることを報告した。また、Anを基質とした場合、UDP-Glucuronyltransferase 活性に 顕著な 個体差が 雌性および 雄性ラットに存在することを見出した。今回、同系雄性ラットに  $[^3H]$ -An を投与し、その胆汁中代謝物を調べた。

「実験」胆管カニューレ手術を施したWistar系雄性ラットに[ $^8$ H]-An (0.73 $\mu$ Ci, 3.4 $\mu$ mole)を投与し、胆汁および尿を経時的に捕集した。胆汁は Amberlie XAD-2, Sephadex LH-20 カラムにより、Monoglucuronide、Monosulfate、Diconjugate 分画に分離し、各抱合体はそれぞれ  $\beta$ -Glucuronidase、Solvolysisにより加水分解した。得られた Steroids は TLC により分離後、GC および GC-MS により同定した。

〔結果・考察〕雄性ラットにおいて、An 代謝物の担汁中排泄に著しい個体差がみられた。排泄率の高いラットでは主抱合型は Monoglucuronides であったが、排泄率の低いラットでは Monoglucuronides, Monosulfates, Diconjugates がほぼ同じ割合で生成していた。更に、代謝物については、雌性ラットよりも Polar な Steroidsに多く変換されていた。従って、雄性ラットにおける An の代謝に個体差が存在すること、またその代謝パターンは雌性ラットのパターンとも異なることが明らかとなった。